

公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン 評価委員会 議事録

1. 日 時

令和2年11月30日（月） 午後6時55分から午後8時30分

2. 場 所

藤岡市役所 中庁舎3階 大会議室

3. 出席者

(1) 評価委員会委員

藤岡市 副市長	高橋 厚
高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科 准教授	木村 憲洋
藤岡市区長会 会長	秋葉 正道
藤岡市国民健康保険運営協議会 会長	新井 紀義
藤岡市鬼石商工会 会長	林 直男
藤岡商工会議所 副会頭	守口 謙二
藤岡多野医師会 会長	山崎 恒彦

(2) 病院長

公立藤岡総合病院	塚田 義人
藤岡市国民健康保険鬼石病院	工藤 通明

(3) 事務局

公立藤岡総合病院	
経営管理部長	新井 滋
次長兼企画財政課長	中里 光夫
企画財政課長補佐	新井 恵介
企画財政課企画グループリーダー	平澤 和興
藤岡市国民健康保険鬼石病院	
事務長	村木 道生
事務課長	桜井 崇裕
事務課長補佐兼庶務係長	中里 健一
事務課医事係長	古市 広美

4. 欠席者

群馬医療福祉大学看護学部 准教授	源内 和子
関東信越税理士会群馬県支部連合会藤岡支部 支部長	熊崎 新二

1 開 会 （午後 6 時 5 5 分開会）

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 桜井】

皆様、こんばんは、本日は公私ともにお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。定刻前でございますが、お集まりのようですので、これより「公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会」を開催させていただきます。私は、本日の進行をさせていただきます鬼石病院事務課長の桜井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日、委員であります群馬医療福祉大学看護学部准教授 源内和子先生におかれましては、学生に新型コロナウイルス感染者が発生したため欠席となっております。また、関東信越税理士会群馬県支部連合会藤岡支部支部長 熊崎新二様におかれましては、体調不良のため欠席となっております。

本日の会議ですが、感染防止の観点から 1 時間半を目途に行いたいと思います。またマイクの消毒と途中で換気を行いたいと思います。

初めに、資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、事前に郵送させていただきました。本日の会議で使用する資料は、次第、評価委員会委員名簿、公立藤岡総合病院改革プラン、藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン、評価委員会の委員名簿を用意いたしました。不備なものはございませんでしょうか。

2 あいさつ

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 桜井】

次に、次第の 2、「あいさつ」でございます。初めに、事務局であります鬼石病院の工藤院長よりご挨拶を申し上げます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

鬼石病院の工藤と申します。本日は、遅い時間に関わらずお集まりいただきましてありがとうございます。委員の皆様にご当院と公立藤岡総合病院の改革プランについてご審議、ご指導いただきまして、今後の病院運営に役立てたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 桜井】

ありがとうございました。続きまして、「公立藤岡総合病院の塚田病院長」より、ご挨拶をお願いいたします。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

藤岡総合病院院長の塚田と申します。本日は、公立病院改革プランの評価委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

平成 28 年度からの改革プランでありまして、当院は、平成 29 年 11 月に外来センターと病院が統合し、新病院となりました。その間大きく変わりました。一体化しまして確

実に診療しやすいような病院、診療実績の確認など評価いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

4 議 題

(1) 改革プランの説明及び進捗状況について

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 桜井】

続きまして、次第の3、「議題」となります。病院改革プランは、新公立病院改革ガイドラインに基づき作成されたもので、点検評価を年1回以上行う事とされており、本日は、委員の皆様へ令和元年度の実績について評価をいただきます。

なお、会議内容は公表する事になっておりますので、この委員会の会議の内容は録音させていただきます、議事録を作成後、それぞれの病院のホームページで公開することとなりますので、あらかじめご了承をお願いします。

それでは、これより議事に入りますが、設置要綱第6条第1項により、「会議の議長は、委員長が務める。」こととなっておりますので、これ以降は、委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

それでは、高橋委員長よりよろしくお願いいたします。

【高橋委員長】

それでは、委員長が議長として進行役を務めさせていただきます。

皆様には、公私ともにお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。先ほど鬼石病院、藤岡総合病院の両院長からお話がありまして、おりコロナ禍により厳しい環境におかれております。その中において両病院ともPCR検査含めて、コロナ対策に頑張ってもらっておりますが、非常に厳しい状況であります。今回は説明をしていただき、皆様から率直なご意見をだしていただき、今後の両病院の病院経営、運営に活かしていきたいと思ひます。

それでは、まず事務局より実績等の説明をしていただきます。まず藤岡総合病院、その後鬼石病院という順で説明をお願いします。それでは、お願いします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課企画グループリーダー 平澤】

新公立藤岡総合病院改革プラン令和元年度の説明をさせていただきます。

病床は、急性期病床295床、回復期リハビリテーション病床48床、地域包括ケア病床47床、人間ドック5床、感染症4床の、合わせて399床として稼動しております。回復期リハビリテーションと地域包括ケア病床を効率的に稼動することにより、平均在院日数の短縮を図り、現在のところ、急性期病床の単価は64,000円を上回っております。病床種別の現在の考え方は、昨年度と同様、地域医療構想に沿う形での病床の開設により在宅復帰に向けた診療の強化を図って参りたいと考えております。

それでは 1 ページ中段をごらんください。

「(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化」についてですが、

地域医療構想では、藤岡医療圏は人口減少が示されており、同時に高齢者の人口は増加現象となります。また、地域特性として埼玉北部の医療需要に対応することも考えていかなければなりません。

当院としては、外来医療の専門的検査や治療に重点をおいた紹介型外来を強化し、入院医療は急性期に特化しつつ機能分化を図りながら、回復期リハビリテーション病床や、地域包括ケア病床の充実、訪問看護ステーション、介護老人保健施設を活用していきたいと考えております。

また、藤岡市国民健康保険鬼石病院、地域医療機関、藤岡市などの行政との連携を図り、地域住民が安心して生活していくために医療から在宅医療・介護までの一連のサービスが提供されるよう 2025 年に向け地域包括ケアシステム体制を構築していきます。

③ 一般会計負担の考え方についてです。

地方公営企業の独立採算性の原則に従って病院経営の継続と自立を考慮し、総務省通知の繰り出し基準に基づき項目ごとの算定としている。

必要な医療の質を確保するため、構成市町村と繰り出しについて継続して協議していきます。

それでは、元年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。

1 ページ下段の「④医療機能等指標に係る数値目標」をご覧ください。

救急患者数では、計画に比べ延べ患者数 4,902 人の減、これは、統合後、一般外来での通常診察に切り替わったためと考えております。全身麻酔の手術件数は計画値より 69 件の減、昨年実績からも 7 件減少している結果となっております。今後は、地域の拠点病院として、現在開設している急性期病床 295 床の稼働を高め医療の質の確保に努めてまいります。

紹介率は計画と比べ 8 ポイント増の 61.2%、逆紹介は 32.2 ポイント減の 90.8% となります。地域医療支援病院としての要件を確保するため、今後も紹介率、逆紹介の率を高めて行くよう努めて参りたいと考えております。

医療相談件数は、計画と比べ 3,073 件の増加、総合相談室のサポート件数により、増加となっております。

患者満足度は、マイナス 12.5 ポイントの減となっております。

患者本位の医療を担保するため、今後も引き続き患者サービスの向上を意識し、職員一丸となって努力していきます。

2 ページをお開きください。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。

まず令和元年度の各実績数値ですが、「1) 収支改善に係るもの」の中では計画と比べ経常収支比率が 95.6% で 4.8 ポイント、医業収支比率 95.4% で 4 ポイントと計画値を下回る結果となりました。

計画で比較しますと、医業収益が約 2 億円の減、医業費用が約 2 億円の増となり、要因としては、入院患者数が想定より少なかったことがあげられます。費用におきましては、新入院棟開設時の機器・備品等の導入による減価償却費増加と化学療法の増加に伴い薬品費も増加

していることで増額となっています。

2) 「経費削減に係るもの」の中の「診療材料費対医業収益比率」ですが、平成30年度実績に対し、0.3ポイント増加しております。また薬品費の対医業収益比率は、実績に対し1.3ポイント増加しました。職員給与費は計画値からは0.5ポイント減少しておりますが平成30年度実績からも、0.5ポイント減少しております。

100床当たりの職員数は、計画値から8.6ポイント減少となりました。

3) 収入の確保に係るものとして、1日当たりの入院患者数ですが、計画値から33.1人の減少となりました。平成30年度実績からは、12.5人の減少となっております。1日あたりの外来患者数ですが、計画値からは、19.5人の増、平成30年度実績値からは、62.3人の減となっております。要因としては、紹介型外来が浸透してきたものと思われれます。

4) 経営の安定性に係るものとして入院単価、外来単価をあげておりますが、入院単価においては計画よりも3,702円増、平成30年度実績からも1,380円の増となっております。外来単価についても計画値を3,177円上回ることができました。現金預金残高では、平成29年度での旧入院棟の残債の一括償還を行わなかったことで、残高が変更されています。

②経常収支比率に係る目標設定の考え方についてです。

病院機能統合による建設改良費や企業債償還金の増加により現金預金残高は厳しい状況となりますが、効率的な運営により、収益確保を図り、経常収支黒字化を目指していきたいと考えております。

計画目標に近づけるための取組みとして、

「民間的経営手法の導入」では、医事業務、清掃業務、洗濯業務、宿直警備業務、医療機器保守、施設設備保守、廃棄物処理、給食業務、滅菌処理業務の委託化を実施しており、今後も継続的な業務委託の見直しや導入を検討してまいります。

また、人事評価制度による適切な人事管理を行ってまいります。

「事業規模形態の見直し」では、統合前までの運営面での非効率や両施設の掛け持ち診療を行う医師の負担増大など、これらの課題を克服し安定的な地域医療を提供できるよう努めてまいります。

「経費削減・抑制対策」では、人件費については、再任用者や非常勤職員等の活用により人件費の削減を図ってまいります。

「収入増加・確保対策」ですが、

地域包括ケア病床・回復期リハビリテーション病床の開設により、病床の横断的活用を進め、病床利用率の向上を目指すとともに、平均在院日数の短縮により診療密度を高め診療単価の増加を図ってまいります。

続きまして3ページをお開き下さい。

(3) 再編・ネットワーク化についてですが、

藤岡市国民健康保険鬼石病院との経営主体の統合についての必要性は、公立藤岡総合病院の統合後検討していく予定でしたが、現在のところ具体的な構想はありません。と記載しておりますが、必要に応じ検討してまいります。

続きまして4ページをお開き下さい。

1. 収支計画（収益的収支）についてです。

平成30年度の実績値が赤字で表記してあります。

経常収益は上から10行目太線のところですが、110億6,600万円の前年度比1億7,500万円の増となりました。

一方で中段にあります経常費用は、115億7,300万円の前年度比、3億2,500万円の増となり、経常損益では5億700万円の赤字、純損益でも同じく2億8,700万円の赤字となりました。要因としては、減価償却費の11億9,300万円と材料費、経費の増加が影響しております。

2. 収支計画（資本的収支）、については、

収入は平成30年度、企業債の借り入れ1億9,700万円。構成市町村の企業債負担金5億9,800万円となります。

中段にあります支出については統合時の医療機器整備事業の元金償還が始まり増加しております。

以上、誠に簡単ではございますが、詳細説明とさせていただきます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課庶務係長 中里】

それでは続いて、鬼石病院の改革プランを、わたくし、鬼石病院事務課庶務係長の中里が説明させていただきます。

まず、鬼石病院の現状について説明いたします。地域的には少子高齢化が進行するなど、人口減少に歯止めがかからない状況です。当院の診療圏（半径4km圏内）の人口は、「平成30年度＝9,020人」、「令和元年度＝8,872人」と148人の減少となっています。

このような中、外来におきましては内科、外科、整形外科、眼科、循環器内科、呼吸器内科、消化器外科、肛門外科、リハビリテーション科、皮膚科の計10科を標榜し、総合的な医療を維持・提供しています。

専門的な医療については基幹病院である公立藤岡総合病院へ紹介する体制をとっています。

入院につきましては、一般病床52床と療養病床47床の合計99床を維持しています。一般病床では地域包括ケア病棟入院料をいち早く取り入れ、現在は全床で算定しています。主に、公立藤岡総合病院からの急性期後の患者の受入れや在宅復帰への支援に力を入れています。

療養病床では慢性期疾患における療養の場として、地域唯一の病院としての医療を担っています。

経営状況につきましては、平成20年度から赤字に転落し、平成23年度から27年度までは毎年度1億円を超える赤字を、平成28年度については8千5百万円、平成29年度につきましては5千9百万円あまりの赤字を計上しました。平成30年度より回復基調となりプラス164万円と10年ぶりの黒字計上となりましたが令和元年度においては6,200万円の赤字計上となりました。経営につきましては、まだまだ厳しい状況に変わりはないと考えています。

(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化」についてですが、当院は、先ほど述べたとおり、

過疎化や少子化が進む、奥多野地域及び埼玉県北部地域を診療圏とする病院として、地域住民が安心して生活できるよう、医療技術や設備の充実を図るなど、医療環境の整備に邁進してきました。

また近年は、国が推進しております「地域包括ケアシステム」の構築に向け、地域医療を担う病院としての役割を果たすべく、地域包括ケア病棟入院料の導入や、在宅復帰を支援するための訪問看護・訪問リハビリ事業の拡充、介護系施設への往診、急性期を担う公立藤岡総合病院や退院後に関わる高齢者施設及び居宅介護などとの連携の強化等、様々な取り組みを継続実施しております。当院が地域のなかでこういった役割を担っていくのかを、改めて考えているところです。

当院は厳しい経営が続いてきましたが、地域の医療を確保するために、先ほど述べたような、地域包括ケアに則した算定基準の導入や各種訪問・往診事業の拡充などの増収策を講じてきましたが、まだまだ一般会計からの繰出金に頼らざるを得ない部分もあります。

引き続き経営改善策を考え実行しながら、地域に根ざした、地域から求められる医療を提供し続けてまいります。

それでは、続いて令和元年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。④医療機能等指標に係る数値目標をご覧ください。

令和元年度の実績値が赤い文字で表記してあります。計画の目標値に対し、在宅復帰率では、-3.2ポイント、医療機関からの入院件数では-2.9件、目標値を下回りました。医療機関からの入院については、地域医療連携室を中心に、より一層周辺の医療機関との連携を強化し、目標値に近づけたいと考えます。

訪問事業では、看護については21.1件目標を上回りました。リハビリでは、月平均4.9件下回りました。通所リハビリにおいては、プラス6.5件となりました。在宅支援事業については、引き続き拡充に努めたいと思っています。

患者満足度については、昨年よりプラス1.2ポイントの94.6%でした。このアンケートにより患者の貴重な意見が得られ、当院の理念である「患者本位の医療」の遂行のため、職員一人一人の意識を新たにしたところです。今年度以降、目標値を上回るよう、努力を重ねているところであります。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。

まずは令和元年度の①経営指標に係る各実績数値ですが、「1) 収支改善に係るもの」の中では経常収支比率が95.0%で-3.6ポイント、医業収支比率82.6%で-1.8ポイントとなりました。平成30年度に比べ、それぞれポイントを下回りました。

「1日当たりの入院患者数」では87.5人で+0.5人。「病床利用率」が88.4%で+0.5ポイント目標値を上回りました。これは、地域医療連携室の対応により入院の受入れ体制が改善したことによるものです。

しかし「1日当たりの外来患者数」では-13.8人と、平成30年度の実績値よりさらに-1.5人減少してしまいました。これは、過疎化による地域人口の減少が主な要因であると考えています。また、前後しますが、「2) 経費削減に係るもの」については、医業収益（主に入院収益）の増収等により、平成30年度に比べおおむね改善しています。

このように、経営的には回復基調を示しており、項目によっては計画目標を達成していますが、まだまだ目標値に達しないものも多くあります。それらを目指値に近づけるための取組みとして、次のことを引き続き推進していきます。

③目標達成に向けた取組みですが、「民間的経営手法の導入」では、清掃、医事業務、給食業務、診療材料 SPD 業務・医療器具滅菌業務・宿直警備・廃棄物処理・洗濯業務・アメニティレンタル等、委託可能な業務はほとんどを委託しています。

「事業規模形態の見直し」では、地域人口の減少、入院患者の高齢化や慢性化の進行等、採算をとるのが難しい業務形態は変わりませんが、過疎地域の貴重な医療機関として病院機能を維持していけるよう、地域包括ケア病棟入院料をいち早く採用、しかも環境整備により基本料 1 を取ることににより、収益改善につなげてきました。

「経費削減・抑制対策」では、職員の適正な人員配置により人件費の抑制や委託料、賃借料、材料費等、入札や価格交渉により経費の削減を図るなど。やるべきことをやり、少しでも経費を削減できるよう取り組んでいます。

「収入増加・確保対策」ですが、地域医療連携室やベッドコントロール委員会の活動により、高い病床利用率の安定的な確保を目指しています。

一般病棟では、令和元年度も地域包括ケア病棟入院料の算定により、安定した収益が確保できました。なお、施設への往診や訪問看護事業を展開し、さらに収入増に向けて取り組んでいるところであります。

療養病棟では、療養病床医療区分 2・3 の患者の基準割合である 80% 以上の確保を維持することにより、高い基準の入院料を確保し収益の増加に努めています。

その他、標準的な検査をマニュアル化し、検査・画像診断収益の増加を図ることや、在宅医療を支援するため、訪問看護ステーション機能の充実に努めています。

(3) 再編・ネットワーク化についてですが、これまで述べてきたように、厳しい経営状況の中、持続した地域医療を提供するには、まずは、人材の確保が前提となります。ここ数年、医師や薬剤師等の補充に苦慮しているところでありますが、現在、公立藤岡総合病院、群馬大学病院より、医師を派遣していただき、病院機能の維持を図っている状況です。

1. 収支計画（収益的収支）についてです。

経常収益は上から 10 行目太線のところですが、11 億 8,600 万円で前年度比マイナス 1,500 万円、1.2% の減となりました。経常費用は、中段の太線のところですが、12 億 4,800 万円で前年度比 4.1% 増、金額で 4,900 万円の増となり、経常損益では 6,200 万円のマイナス、純損益でも同じく 6,200 万円のマイナスとなりました。

2. 収支計画（資本的収支）、についてであります。中段にあります支出の欄、令和元年度の建設改良費は 2,400 万円です。建設改良費の内容は、医療機器の購入費であります。購入した主な器具等は、電動油圧手術台・電子麻酔表記録装置・全自動散薬分包機・患者監視モニター用送信機・検査機器等であります。

施設整備については設備の長寿命化を図るため浄化槽改修工事を行いました。

以上、簡単ではありますが、鬼石病院改革プランの説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

【高橋委員長】

事務局からの両病院の説明が終わりました。委員の皆様からのご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。

まず、木村副委員長より、ご意見をお願いしたいと思います。

【木村副委員長】

藤岡総合病院さんは、入院患者数が予定より少なく399床に対して314床ということで病床利用率は9割近い数字でありますので、非常に良いと思いますが、これから先の病床数を減らすなり、1病棟あたりの病床数を減らすなどの考えをお聞かせください。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

入院患者数の推移につきましては、病棟や診療科により差があります。人事で、スタッフの変化により変わりやすい。整形外科は非常に大きく変わります。入院患者さんがリハビリを利用して、長く病院を利用してもらう。それだけでも、10人、20人近くは変わってくる。それだけでも、人口減により急性期患者の減少により、需要が減ると思われる。現時点で病床をすぐに減らすことは考えていない。病棟の統合により病棟当たり37床から47床と大きくなった。病棟の数が減り、大所帯のものができた。将来的にニーズに応じて病床をへらすこともあるかと思うが、2、3年経過をみたい。コロナの影響で20%近く入院患者が減り、314人から今年は、270から80と入院患者の減少となると見込まれる。コロナ感染症による患者の減少と思われまます。

【木村副委員長】

努力をして何かできる問題でなく、人事の問題で数字が減少していることが原因で、これからのそれにより経営が左右されることでよいですか。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

医師については、採用が群大医局と密接に関わり病院独自で採用できるものではありません。救急科専門医師も群大に異動しました。患者さんも変化します。病院経営に影響がないように、群大と協議を重ねていきたいと考えます。

【木村副委員長】

ありがとうございます。鬼石病院ですが、人口減少している中で、患者数の推移をみると人口減少のなかで、入院では数字を上げているわけですが、医局の人事はあまり影響ないということよいですか。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

医局から医師が数年派遣されていませんでしたので、影響はうけていないと思われまます。どこの病院も患者の減少している傾向にあると思います。一番大きいのは、長期投与症例の

増加、2週間に1回通っていたものが2、3か月に1回の投与になるので、患者数自体は変わらないが、それなりの患者数の出入りにより、入院患者数が維持できると推測されます。

【木村副委員長】

人口減少により、影響すると思いますが、診療報酬による救急車の取り合いなど非常に厳しい状況にあることは、数字を見ればわかるのですが、藤岡総合病院に関しましては、整形外科の影響がおおきいということもあります。異動の影響がなければ、今年度の数字はなかなか良い数字ではなかったかと推測されると思います。

【高橋委員長】

続きまして、医師会の山崎先生よりお願いしたいと思います。

【山崎委員】

外来の紹介について、患者さんの希望もあるが、この地区の公立病院であります両病院には多くの方を紹介しています。急性期の患者についても、今までと変わらず対応していただき感謝しています。

埼玉北西部も医療圏に含めないとなかなか経営が成り立たないと思いますが、病院自体の維持のための設備更新、減価償却につきましても大きいと思います。

医局の人事については、前橋以外の群馬県内は医師不足となっている。ただ、藤岡総合さんは、研修医は満員となっており、研修終了後もまた藤岡総合に居て頂けると期待しています。これからも宜しく願います。

鬼石病院は、医局からの非常勤の先生がいらっしゃっている。実際は、常勤4人の先生ということで、これだけのことをやっているのはかなりハードと思われれます。当直には非常勤の先生も入っていると思います。

地域での在宅医療に関しては、看取りするとき知っている病院に、一時的に入院をお願いしているところですが、現状は、国の方針として帰宅を原則としていますので、その中で依頼している先生たちには無理をお願いしているところですが。ベッドをやめて3年くらいになるが、昔はしっかりと病院にまかせていたところですが、そういう訳にもいかず、コロナもあるので、今後どうしていくのがいいのか考えているところです。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

紹介型病院、地域医療支援病院として医療圏をまとめ、地域の開業医の皆さんと医療をまとめるお願いをしたいと思います。なるべく多くの患者さんを診療したいと思っています。病院の外来機能の充実をはかっていきたいと思っています。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

当病院は、藤岡総合病院さんへ急な手術の依頼や患者さんの受入れをし、協力連携していきたいです。これからは地域包括ケアと地域医療の時代のなかで、開業医の先生の患者さんを受

け入れながら、在宅、地域包括ケアを含めて、当病院の存在意義を確かめていきたいと思っています。

【高橋委員長】

続きまして、藤岡市国民健康保険運営協議会会長の新井紀義さんよりお願いします。

【新井委員】

医療従事者の方々につきましては、コロナ禍のなかで時間もない中、頑張ってくださいありがとうございます。その中でアクセスが良くなったことで、藤岡総合病院さんは、高崎南部の患者さんも医療圏に含めるとよいかと思います。アクセスが良くなっておりますので、医療圏を広げるような対策をとっていただけると住民にとっては有り難いと思いますし、満足度もあがりますので、患者さんの増加にもつながると思います。鬼石病院さんは、地域になくはならない病院として医療を頑張っていると思います。地域の即した考え方の方向性で進めて頂けるとよいと思います。コロナ禍の中で非常に頑張っていると思います。感謝しています。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

高崎南部の吉井町や新町とのアクセスが良くなった中で、さらに広報活動に取り組み、内容を充実させ、地域医療の存在意義を上げて、受診について広めていきたいと思っています。

【公立藤岡総合病院 経営管理部長 新井】

令和元年度の患者満足度が70%は、アンケートの項目を見直した影響があります。現在令和2年度は90%となり、職員の態度対応についてはかなりいい評価をいただいています。ただし、院内の案内表示や駐車場の分かりにくさなどが満足度を下げている要因と思われます。駐車場については、入口の変更により病院に入りやすくしており、表示も青色に統一したことにより満足度が上がったと思います。

【新井委員】

以前ですが、窓口の委託職員の方について、もうちょっと良い対応をして頂きたいと思っておりました。対応について対策を取り頑張ってもらいたいと思います。

【公立藤岡総合病院 経営管理部長 新井】

委託職員を含め、接遇研修を行い、向上に努めたいと思います。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

当病院は、国保では県内でただ一つの病院として地域に貢献できる体制を整えるよう考えています。インフルエンザワクチンが不足がちのことから、薬剤卸業者へ積極的に納品を依頼し在庫切れのないようにしている。患者についても、高崎南部からも外来に来ている状況もみ

えます。PCR検査についても検査体制を整え、埼玉県からも患者が多くきますので、地域の期待に応えるべく頑張っております。

【高橋委員長】

続きまして、藤岡市区長会会長 秋葉正道さんお願いします。

【秋葉委員】

患者満足度についてお伺いします。満足度の上昇を計画含め課題としている中で、入院している方に聞きましたが、医師や看護師の対応が非常に良いと聞きました。患者満足度もあがるだろうなあと思いました。これからも、よろしくお願いします。また、鬼石病院につきまいては、少ない医師ですべてをまかなっているということで大変だと思います。常勤の眼科と整形外科の先生がおられない中で、群馬大学や藤岡総合病院からの派遣非常勤の医師で何か支障がないかどうかお伺いしたいと思います。それから、患者満足度については、年々良くなっております。地域の方からもそういった声を聞いておりますので、引き続き努力し頑張っていたいただければと思います。患者さんも増加するような対策を取って頂ければと思います。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

満足度については、レストランの献立や駐車場の進入路の案内などを改善したおかげで上がっています。今後も周知をさらに進めていきたいと思って居ます。さらにコロナ禍において、駐車場から院内に入る距離を短くするなど、さらに改善を行っています。サービスの向上を進めていっているところであります。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

施設設備が藤岡総合病院さんなどよりも不十分な中、できることをやっていくということでやっています。整形外科や眼科については、整形外科は藤岡総合さん、眼科は従来来ている先生、外科についても藤岡総合病院さんより来ていただくこととなりました。藤岡総合病院さんなどで全ての検査を行い短期で退院された患者さんが、山間部のご自宅へ一人暮らしの方も多く、すぐには戻れない。そんな中で鬼石病院に入院するとそんな中に藤岡総合病院で知っている先生がいるというだけで患者さんは安心して医療が受けられると協力関係がうまくいっていると考えております。

【秋葉委員】

地域の方々と集まった際にはお伺いした話をしていきたいとおもっています。ありがとうございました。

【高橋委員長】

それでは、私の方から経営分析の観点からみて、両病院とも元年度は、前年度と比較すると

赤字が大きくなったようにみえます。ただ、鬼石病院は平成30年度に10年ぶりの黒字になりましたが、また赤字になったということで、これが一時的なものなのか、医師を含め、人事的な面もあり大変かと思いますが、5か年計画を進めまとめる中で、今後の見通しについてどうなんでしょうか。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

コロナの影響も一時的にあるかと思います。2025年問題があり、地域の核になる病院といえ、人口減少により産婦人科や小児科は数年前に比べ確実に減少しています。高齢化のなかで慢性期の患者さんを診ていくことが多くなりますので、今後の病院のあり方を考えないといけない。病床数をどう変化させ見直すことも必要であります。また、訪問看護ステーションの需要が増えるとみていまして、病院として広域の患者を受け入れることで経営の安定化を目指す運営をしていくことが大切と思っています。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

以前は、手術し1か月ほど入院していくような治療でしたが、現在は、手術をしてからすぐに退院するような医療に変わっている。入院期間がさらに短くなる中で急性期病院の患者さんを抱えていくというのは大変だと思います。ただ当院は、急性期患者でなく、地域患者さんの在宅訪問に対応していきたい。実際には常勤医3名で行っているが、医師を増員することも決まっており、さらに充実させ平成30年度のような数字を令和2年度は出すようにと考えております。

【高橋委員長】

続きまして、藤岡商工会議所副会頭 守口謙二さんお願いします。

【守口委員】

患者満足度について、アンケート内容を変えたということもあると伺いましたが、鬼石病院さんの79%が98%になっている要因は具体的にありますか。また、外来の患者さんが少なくなっている中頑張ってください感謝しています。また、補助金について、藤岡総合さんは歳入の計画で2億7,000万、実質は1億4,000万。鬼石病院さんは、8,000万に対して1億ということで、その説明をしていただきたい。それと、計画のなかで特別損失が30億にたいして実質は1億であった。その30億の内訳を教えてください。預金残高37億6,400万ですが、5年前は50億ほどあったように思いますが、かなりの減少をしているが企業債の償還が12億ほどありますのでその影響もあるのかと思いますが、どうなんでしょうか。また、コロナ患者についてですが、群馬県内で1,295名おります。藤岡市では22名おります。藤岡総合病院さんで発熱病棟などあるかと思いますが、PCR検査の機器設備も格安なものも出ておりますので情報提供としておきます。感染症患者に対応する従事者に対して、これから第3波が来る中で日当が1日2,000円、長期にわたると4,000円と聞いたのですが、どうなんでしょうか。教えてくださいと思います。

【林委員】

私の方からも質問させていただいて、一緒に答えていただくことでよろしいですか。

【高橋委員長】

それでは、林委員さんお願いします

【林委員】

最後のページについて、入院患者も外来患者も減っているので収支が悪くなるのは、理解できますが、なぜ入院単価や外来単価が上がるのでしょうか。そして、職員給与はほぼ計画どおりなのかと思います。ただ、他の面で計画通りに進まないなか、単価が上がるということが商売として客が少なくなったから単価を上げる発想になるのですが、どうなのでしょう。

【公立藤岡総合病院 次長兼企画財政課長 中里】

当組合は、藤岡市、高崎市、上野村、神流町の4市町村で構成されております。その構成市町村より企業債元金や救急医療負担金などをいただいております。実績として1億5600万の実績になっております。特別損失について、移転前の旧病院の資産が残っており、移転後の令和元年度に資産の廃棄を予定しておりましたが、令和3年、4年の建物解体後に変更したため、この数字となっています。現金について、建築に100億以上かかっており、企業債と現金から出ています。その企業債の償還が12億ほどありまして、半分は構成市町村から、半分は病院からの現金によりますので、そのため減少しています。外来単価は、がん拠点病院として、外来患者の化学療法などが増えています。抗がん剤投与など、入院せずに外来通院を希望している方が増えたため、単価が上がりました。また、入院単価は、急性期病院として平均在院日数の短縮を目指しており、診療報酬は入院が長くなると収入が減るようになっていまして、長期に入院している方の減少によって患者数が減るが、新規患者が増えることで、単価が上がる要因となっています。

【公立藤岡総合病院 経営管理部長 新井】

感染症の取り扱い手当は、コロナ患者の対応に対して、国制度に準じた単価、1回当たり4,000円又は2,000円でして、当院と鬼石病院は同じ扱いになっています。

【守口委員】

非常に大変なお仕事をされている中で安いように感じます。見直す方向の考えがあればしてあげればと思いましたので質問しました。ありがとうございました。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

入院単価と外来単価は、2、3年前に藤岡総合病院との差が大きくないかとの質問があっ

た。当院は大きな手術等ないので、単価は下がります。長期の入院を避け短期の入院で治療を行い単価を上げる努力をしている。そのため、単価が上がっています。外来患者は、長期処方が増え、1か月に1回が2、3か月に1回になり、1回当たりの治療費が集約されるため、単価が上がっていると思います。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長 桜井】

繰出金の資料4ページの上段7行目あたりに、他会計補助金として、計画8,900万、実績が1億円とあります。これは、1ページ中段の一般会計からの負担でして、当病院は不採算地区としてへき地病院に指定されており、繰出し基準は、経費に対し収入をもって充てることができないと認められる額について一般会計から補助するとなっています。計画よりも負担が増えている点については、収入に対して費用が増えているということからと思われる。また、眼科、内科、外科など一般外来の経費について補助されていまして数百万ほどですが、眼科は200万の増加、救急200万の増加となっています。患者満足度については、入院患者、外来患者、訪問看護を対象に調査を実施しました。藤岡総合病院さんと比較して高い数値になっています。ただ、藤岡総合病院さんは内容が厳しいものとなっており、比べると当院は比較的簡易なアンケート内容になっておりますので、その影響もあり、高めになったと思われる。さらに、接遇委員会を月に1回開催し、接遇の向上を図っています。

【高橋委員長】

そろそろ時間も過ぎてきましたが、続いて山崎委員さんから要望等がありますか

【山崎委員】

患者満足度について、現状の令和2年度はコロナにより4、5月は、請求点数が診療科にもよると思うが小児科や耳鼻科で40%減、病院は10%減となっており、今年度は厳しい状況になっている。今までと異なった状況のなかでどう診療するかが重要になっている。藤岡総合さんや鬼石病院さんについては、発熱外来の設置など協力していただき感謝している。また、周りの開業医の22件でPCR検査、外注になるができるようになった。それでも、埋まらない場合に備え、協力をしみんなで十分な医療を提供していきたい。藤岡総合さんや鬼石病院さんと努力して、地域の医療体制を保っていききたいと思います。よろしくお願ひします。

【高橋委員長】

皆さんの意見をだして頂きました。お聞きになったうえで、木村委員より何かありますか。

【木村委員】

基本は病院が住民にとって良い状態になることが重要ですので、そこでいかに経営を考えるかになります。病院は、全国的に厳しいですが、藤岡総合病院さんや鬼石さんも経営が悪い状態だと思います。ただ、全国的にみると良い方だと思っています。藤岡総合病院さんも鬼石病院

さんもそれほどには厳しい状況ではないと思いますが、収支比率・資金不足が悪くなっている
ので、それらを解決することを考えながら、サービスの向上と地域の医療を頑張るといいので
はないかと思いますが、そんな中で藤岡総合さんはがんばっていると思います。また、診療報
酬の点数についてですが、大変構造が難しくなっています。質問に出たと思いますが、考え方
として、入院日数が短くなると高くなるようになっています。つまりは、その分頑張っている
ということになります。以上です。ありがとうございました。

【高橋委員長】

それでは、時間になりましたので、議題につきましては終了させていただき、ここで議長
の役を終わらせていただきます。長時間にわたり、大変ありがとうございました。

3 閉 会 （司会より）

午後 8 時 3 0 分 閉会
